

第1回食品のウイルス標準試験法検討委員会議事録

- 1 開催日時：平成22年6月22日(火) 午前10時～12時
- 2 開催場所：国立医薬品食品衛生研究所 28号館 3階第一会議室
- 3 参加者

委員

山本 茂貴（国立医薬品食品衛生研究所・食品衛生管理部）委員長

大島 赴夫（財団法人食品薬品安全センター秦野研究所）

田中 廣行（財団法人日本食品分析センター）

片山 和彦（国立感染症研究所・ウイルス第二部）

岡 智一郎（国立感染症研究所・ウイルス第二部）

石井 孝司（国立感染症研究所・ウイルス第二部）

（順不同）

事務局

野田 衛（国立医薬品食品衛生研究所・食品衛生管理部）

4 会議の概要

1) 開会の挨拶

山本委員長から、挨拶が行われた。

2) 自己紹介

各委員が、簡単な自己紹介を行った。

3) 委員会の設立、組織、目的、今年度の活動等について

事務局(野田)が、委員会の設立、組織、目的、今年度の活動などについて説明した。

4) 民間におけるノロウイルスの（食品）検査について

田中委員から、民間企業における微生物検査特にウイルス検査の実施状況、国際的な動向、問題点などについて説明を受けた。

5) 微生物の外部精度管理について

大島委員から、微生物の外部精度管理に現状や食品のウイルス検査の外部精度管理実施における問題点等について説明を受けた。

5 議事の概要

各委員の説明を受け、以下のような意見交換が行われた。

1) キットや試薬に関して

- キットや試薬はできるだけ、特定の業者のものにしない配慮が必要である。
 - 試薬によってはメーカー等を指定しなければいけないものもある。その場合、とりあえず標準的な試薬を示し、性能評価のための方法をガイドラインとして示せばいい。
- ### 2) 微生物技術協議会のリファレンス委員会及び病原微生物検査マニュアルとの関連
- 衛生微生物技術協議会のリファレンス委員会との関連は？複数の試験法ができると、公定法、検査マニュアル、食品検査などますます複雑になってしまう危険性がある。
 - 相互に連携するためにも、両方に関連する先生方に入っている。そこで動

きが違ふと問題が生じるので、リファレンス委員会と本委員会を相互に連携して、動いていただきたい。

- リファレンス委員会の中で各ウイルスに共通に使える方法の整合性をとってほしい。現状は病原体ごとのマニュアルなので、食品の検出という面から共通化できるところは共通できるように、横の連携をしていただきたい。
- 3) **標準品（標準プラスミド DNA、添加回収用ウイルス）**
- 標準プラスミド DNA の市販化は困難でしょうか？
 - 感染研から民間企業等には、分与することができないので、市販化はできない。
 - 特定の業者が患者からの RNA 抽出以降全ての操作を行い、プラスミドを作った場合、その市販は可能か？
 - それは可能である。
 - いずれにしろ、感染研から民間を含めた検査機関に標準品を配付するのは不可能なので、その供給体制を確立する必要がある。
 - A 型肝炎では輸入業者から検査の問い合わせがあるが、検査はできない。地方衛生研究所も検査を受けられず、民間では検査が実施できるところがない。検査を実施してもらえない体制は必要と思う。
 - 細菌の場合は登録検査機関の精度管理は食薬センターが行っているが、標準品の供給は行っていない。どのような形で精度管理に供するかという問題はあるが、標準品がないと困るというのは事実である。
 - 国際的な食品のウイルス標準検査法がないというのも問題である。
 - ISO にはないが、CEN の TAG4 で A 型肝炎ウイルスなどの生鮮農産物や二枚貝の検査法の標準化は進んでいる。
- 4) **食品のウイルス検査の外部精度管理**
- 時間もあり、今日は議論できないが、二枚貝のノロウイルス検査については外部精度管理が必要と考えている。問題点はあるがそれをクリアして 5 年後ぐらいには実現させたいと考えている。
 - 外部精度管理については、本省との調整もあり、今すぐの対応にはならない。
- 5) **今年度の課題**
- モデルとなる事例を検討し、最終的には通知法の形で出すことを目標とする。とりあえず、行政からの要求もあるカキのノロウイルスの検査法の改定を課題としたいと思っているが？
 - 緊急性や重篤性から A 型肝炎も対応する必要があるのでは？
 - プライマー部分の改良は必要と思われるので、時間的に余裕があれば対応していきたいと考えている。
- 6) **作業部会**
- 作業部会を作って、地方衛生研究所の先生に協力をいただき作業部会案を作れる体制を作ってほしい。5 つのコラボのデータで通知法を改定することは可能である。
 - 午後の研究班で、今回の委員会について紹介するので、その中で地方衛生研究所の先生に研究協力のお話をしたい。具体的な選定については、後日調整する予定です。